

令和元年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第73回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

令和元年6月1日(土) Bブロック 2回戦 鐘山スポーツセンター総合体育館 Dコート 第5試合

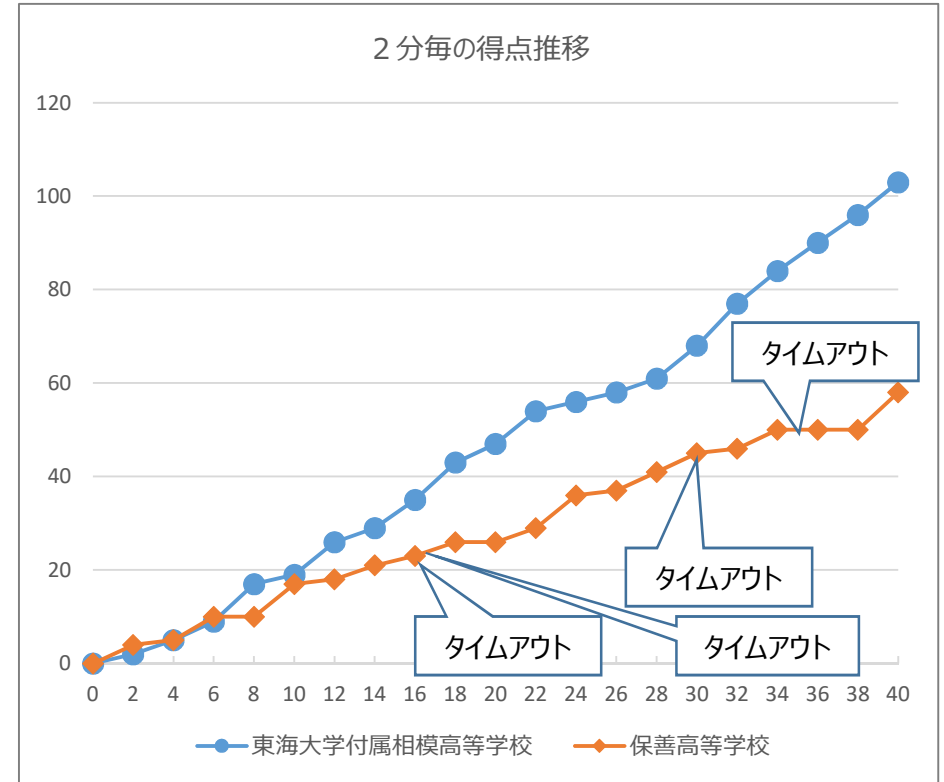
チームA		19	1st	17	58	チームB
東海大学付属相模高等学校 (神奈川県)	103	28	2nd	9		保善高等学校 (東京都)
		21	3rd	19		
		35	4th	13		
			OT			

Aチーム: 東海大学付属相模高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1		4	熊谷 真希	15	1	4	5	8	2	2	1	2	7	9
2	*	5	菅澤 綾人	6	0	2	3	4	0	0	1	1	9	10
3	*	6	田尻 銀之介	2	0	1	1	3	0	0	4	1	2	3
4	*	7	蛭子 修二	3	1	7	0	1	0	0	0	1	3	4
5	*	8	臼井 将也	11	1	2	4	5	0	0	3	2	2	4
6		9	佐藤 駿也	2	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0
7		10	日下 爽	3	1	2	0	1	0	0	2	0	4	4
8		11	立花 諒	39	11	24	1	2	4	5	3	0	1	1
9		12	及川 聖人	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1
10		13	根岸 遥大	3	1	1	0	1	0	0	0	0	3	3
11		14	小山 開大	0	0	0	0	3	0	0	0	2	1	3
12	*	15	御林 広樹	9	1	4	2	6	2	2	2	4	6	10
13		16	市川 凌大	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
14		17	菅原 大夢	6	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
15		18	土田 トリスタン 葉	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
HC/TEAM			原田 政和										4	4
			合計	103	19	50	19	40	8	9	19	13	44	57

Bチーム: 保善高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	宇田川 篤志	15	0	5	6	10	3	4	1	0	5	5
2	*	5	安藤 秀輔	0	0	2	0	7	0	0	0	2	6	8
3	*	6	山本 颯太	15	0	0	4	20	7	13	1	4	5	9
4		7	浅倉 慎之介	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	1
5		8	霜越 大葵	4	0	0	0	3	4	4	0	0	1	1
6	*	9	龍 亮太	7	1	3	2	3	0	0	1	0	3	3
7		10	田村 涼介	2	0	0	1	4	0	0	0	1	0	1
8		11	前田 来飛	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2
9		12	古田 航大	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
10	*	13	清水田 龍	5	0	1	2	12	1	4	2	1	3	4
11		14	山崎 颯真											
12		15	渡会 真裕											
13		16	鈴木 太賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
14		17	國井 栄助	10	2	3	2	2	0	0	1	1	4	5
15		18	深谷 翔											
HC/TEAM			真部 貴之										5	5
			合計	58	3	14	17	66	15	25	9	9	36	45



戦評

記事者: 渡辺 康弘 (山梨県高体連)

1 Q: 東海相模、保善両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。東海相模は# 6、保善は# 8それぞれが得点を重ねる。両チームメンバー交代を試み constants に得点していく。19-17で東海相模がリードで1Q終了。

2 Q: 保善は# 6を中心とした攻撃を続けるが、東海相模のディフェンスに攻めあぐね、東海相模はそこから# 11の3Pを中心に各選手がバランス良く得点を決めていきリードを広げていく。保善はタイムアウト後、ゾーンディフェンスを用いるも東海相模の固いディフェンスに対して得点に苦しむ時間帯が続き、47-26で東海相模がリードで2Q終了。

3 Q: 保善はゾーンディフェンスからスタートしディフェンスを固めていく中、# 17の得点などで追い上げるが、東海相模は# 4が得点を重ね追従を許さない展開。両チームメンバー交代を試みる中、東海相模# 11の連続3Pが決まるが大きく試合の流れは変わらず、68-45で東海相模がリードで3Q終了。

4 Q: 東海相模# 11の3連続3Pが決まり、保善はたまたまタイムアウト。保善はオールコートプレスに変えリズムを引き戻しにかかると、東海相模の固いディフェンスに対し得点に苦しむ時間帯が続く中、東海相模は# 11の連続3Pが決まりリードを広げる。保善はメンバー交代を試みるも、終始、東海相模の固いディフェンスからのバランスの取れた得点が目立つ展開となり、103-58で東海相模が勝利を収める。

主審	第1副審	第2副審
東條 輝正 (指名)	山本 大輝 (山梨県)	長沼 大平 (山梨県)